

宮城県福祉サービス第三者評価結果

1 第三者評価機関名

株式会社福祉工房

2 施設・事業所情報

名称：東北大学星の子保育園	種別：保育所（企業主導型保育所）	
代表者氏名：施設長（園長） 佐藤 寿子	定員（利用人数）： 120 名	
所在地：宮城県仙台市青葉区八幡1丁目8-5		
TEL： 022-302-6771	ホームページ： http://www.hosp.tohoku.ac.jp/hoshinoko/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：東北大学病院 （運営委託先：アートチャイルドケア株式会社）		
職員数	常勤職員： 18 名	非常勤職員： 8 名
	（専門職の名称）	
	主任保育士 1 名	保育士 5 名
	保育士 13 名	看護師 1 名
	栄養士 3 名	栄養士 1 名
		事務員 1 名
施設・設備 の概要	・乳児室 ・ほふく室 ・保育室4 ・調乳室 ・沐浴コーナー ・シャワー 室 ・遊戯室（ホール） ・多目的トイレ3 ・幼児用トイレ12 ・医務室 ・事務室 ・図書コーナー ・相談室兼面談室 ・更衣室兼休憩室 ・洗濯室 ・厨房 ・検収室 ・倉庫 ・園庭 ・外部トイレ ・外部倉庫	

3 理念・基本方針

<p>保育理念</p> <p>～「自分らしく」生きていくことのできる子どもを～</p> <p>子どもの全人格を尊重し、子どもたちが本来持っている「生きる力」を育（はぐく）み、何を学ぶかよりも、どう学ぶかを考えられる子どもを育てたい</p> <p>保育目標</p> <p>そんな子どもたちを育てていくため「安心と安全」を前提に</p> <ul style="list-style-type: none"> ★睡眠と生活リズムを整える事を目指して保育を展開していきます ★一人一人の個性と成長に応じた保育を展開していきます ★子どもの「失敗」を受け止める保育を展開していきます

4 施設・事業所の特徴的な取組

- 企業主導型保育事業における環境づくり
 - ・様々な勤務体制に対応できるよう土日祝の開設をはじめ、延長保育や終夜保育が利用できる。
- 健康面、衛生面への取り組み
 - ・0歳児、1歳児が全体の7割を占めているため、感染症対策を軸に養護面の手厚い保育を心掛け実施している。
- 教育面への取り組み
 - ・発達状況に応じたリトミックや体操を取り入れ、あそびの中で感性を豊かに育む。
 - ・河原や公園へ散歩に出かけ、近所の方々とあいさつを交わしたりしながら交流を図る。
 - ・縦割り保育を定期的に行うことで、年長児は下の子への思いやりを、年少児は上の子の模倣を育む。
- 地域や学校との交流
 - ・近隣の高校ボランティア活動でプレゼント交流が図られている。
 - ・東北大学小児看護学学生実習の受け入れを実施する。

5 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年1月14日（契約日）～令和2年3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（平成 年度）

6 総評

◇特に評価の高い点

○健康への取り組み

東北大学病院の企業主導型保育園ということもあり、感染症予防などへの取り組みは積極的に行われており、感染症や子供の急病などへの対応は、ロールプレイなどを入れた訓練が年間を通して複数回行われるなど、子供たちの安全への取り組みが徹底されている。

○保育の質の向上に対する取り組み

保育の質の向上の取り組みは積極的に行われており、年間を通じた研修計画、職員の目標管理、職員による園としての全体評価、職員自身の自己評価、保護者へのCSアンケート等、様々な角度から園における質の確認と向上への取り組みが行われている。

○保護者の負担軽減

保護者への負担軽減の取り組みとして、昼寝用の布団は園の方で業者よりレンタルし、定期的に洗濯された清潔な布団が提供され、又、汚れたおむつなども園で処理するなど、保護者の負担を軽減する取り組みが行われている。

◇改善を求められる点

○地域との連携

隣接する学校との取り組みは積極的に行われているが、まだ新設ということもあり、地域との連携は今後の課題となっている。第三者委員でもある民生委員などを通じ、今後地区との連携を中期的に検討していくことが望まれる。

○より相談しやすい環境作り

苦情・相談窓口は明記され、常に相談を受け付ける体制がとられているが、保護者からのアンケート等からはやや職員とのコミュニケーションが不足している面が伺える。より積極的に声掛けするなど、保護者が相談しやすい環境作りへの検討をしていくことが望まれる。

○中期的取り組み計画

現状中・長期計画は作成されていないが、保育理念や保育目標達成のために、中期的にどのような取り組みを行っていくか計画を立てて進めていくことが望まれる。

7 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園から2年目となる今年度。園の歩みとしてはよちよち歩きのこの時期に第三者評価を受審する機会に恵まれ、3年目に先駆ける大きな道標となりましたことに感謝申し上げます。

企業主導型保育事業は今までの保育事業に肉付けを要することが予想され、クライアントとの協議や保護者アンケートを定期的に行うことで真のニーズを汲み取り、本部との連携のもと運営の方向性を模索し続け現在に至ります。

今回の受審においては、初年度振り返りをもとに職員全員でしっかり取り組んできた事項はきちんと受け止めていただき、改善への事項についてしっかりとご指摘をいただきました。この評価を真摯に受け止め、評価していただいた点は更に充実させ、時間を要する課題点は中期計画として取り入れ、一歩ずつ一歩ずつ、改善していきます。

これからも園全体の質の向上に繋がるよう運営していくと同時に、子どもたちの最善の利益を追求し努力してまいります。

8 各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙のとおり（施設の区分に応じ福祉サービス第三者評価結果票を添付する。）（様式2－第三者評価機関公表用）

(別紙)

福祉サービス第三者評価結果票

【保育所版】

(東北大学星の子保育園)

(運営委託先：アートチャイルドケア株式会社)

※ すべての評価項目（65項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※ 評価項目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a b・c
＜コメント＞ 理念や保育方針はパンフレットや入園のしおり、ホームページに記載され職員には毎月の職員会議で読み合わせを行い、周知を図っている。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a b c
＜コメント＞ 社会全体の保育環境に関しては法人での会議や、行政からの情報で把握され、事業所内保育であることから、東北大学病院における状況に関しては、大学病院の総務部門との会合で情報を得ている。事業所周辺における地域情報に関しても第三者委員である民生委員などを通じて情報を得ていくことも期待される。		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a b・c
＜コメント＞ 今年度の園としての重要課題として、感染症対策を掲げ、この拡大防止及び対応策としてロールプレイングによる訓練を実施するなど、職員全体で課題を認識し具体的な対応を行っている。また、その他、職員の育成や安全管理なども事業計画に記載し、取り組みを職員に周知している。		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・c
<コメント> 現在中・長期計画の策定は行われていない。理念や方針、「全体的な計画」の達成や園における課題を解決して中・長期的取り組みを明確にし、職員とともに解決していくためにも中・長期計画を策定していくことが望まれる。		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・c
<コメント> 中・長期計画を策定し、当年度における取組を事業計画に反映していくことが望まれる。		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・c
<コメント> 年度末に各クラスにおいて前年度の評価、反省が行われ、翌年度への継続的取り組みと、新たな取り組みに対する話し合いが行われ、リーダー会議で確認し、事業計画として作成される仕組みとなっている。		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
<コメント> 事業計画は必要な部分を別途記載したものを作成し、保護者会で配布、説明が行われ、保護者の理解を得る取り組みが行われている。		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・b・c
<コメント> 毎年、法人にて行われる保護者へのアンケートおよび職員による年1回の園における自己評価を実施し、園での課題の確認が行われ、リーダー会議で改善に向けた取り組みについての話し合いが行われている。		
9	I-4-(1)-② 評価結果に基づき保育所として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<コメント> アンケートや自己評価から得られた課題は、リーダー会議において改善策が討議され、具体的取り組みが行われている。課題や改善のための取り組みは議事録として記録しているが、毎年の取り組みが明確となるように別途、記録していくことも期待される。		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-①施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・ b ・c
<コメント> 職務分掌は策定され、園長としての役割や権限は明確となっている。また、年度の初めには職員会議や保護者会で、自らの年度における取組を表明している。更に、年度初めの広報誌などに、記載し保護者や職員により理解を促す取組みも期待される。		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a ・b・c
<コメント> 法人及び行政などでのコンプライアンスに関する研修を受講、園においては資料を基に職員に対し、伝達研修が行われている。研修後職員からレポートの提出が行われ、コンプライアンスに関する理解を深める取組みが行われている。		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a ・b・c
<コメント> 職員は保育に関しての目標設定を行い、毎月、目標に対する進捗や反省などに関して自己評価を行い、園長との面談が行われ目標達成に向けた指導やアドバイスが行われている。また、人事考課時には、チェックシートをもとに各職員はそれぞれの保育の内容を確認する仕組みとなっている。		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a ・b・c
<コメント> クラス会議や職員会議での職員からの提案などをもとに、業務の見直しを含め、効率化を図っている。		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a ・b・c
<コメント> 前期末には翌期における必要人材と、職員の勤務継続状態を確認し、必要人材を法人と調整が行われ、必要に応じて異動もしくは新規採用が行われている。現状では必要職員は確保されている。		

15	II-2-(1)-②総合的な人事管理が行われている。	a b・c
<p><コメント></p> <p>「アートチャイルドケアの誓い」には保育士としての職員像がうたわれ、年二回の人事考課が行われている。職員の目標管理などをもとに、主任、園長による面談と一次考課、法人での最終考課が行われ、結果は給与や賞与への反映が行われている。また、最終結果は、それぞれの職員へのフィードバックが行われている。</p>		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	II-2-(2)-①職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a b・c
<p><コメント></p> <p>職員の就業状況は、日常より園長が確認し、職員の家庭状況により勤務体系を考慮している。定期的な面談時以外でも、職員からの相談などを受ける体制はできており、園長、もしくは主任による相談が行われている。</p>		
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	II-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a b・c
<p><コメント></p> <p>年間での研修計画が策定され、法人及び園内での研修が計画に基づき行われている。また、行政における研修、外部からの研修などに対しても必要に応じた指示や職員からの申し出による受講が行われている。</p>		
18	II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a b・c
<p><コメント></p> <p>職員の育成に関しては事業計画の中に記載され、研修の内容に関してもリーダー会議等で確認され見直しがなされている。</p>		
19	II-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a b・c
<p><コメント></p> <p>個々の職員の技術水準や必要とする技能に関しては園長や主任により把握され、又、各職員の個別研修記録がとられ、必要な研修の受講指示が行われている。外部研修は職員全員に案内され、希望又は指示による受講が行われている。新任職員に対しては、法人での新人研修の後、園において専任指導者によるOJTなどが行われている。</p>		
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a b・c
<p><コメント></p> <p>主に、東北大学の小児看護学科からの実習生の受け入れが行われ、毎年8～10名の実習が行われている。園での実習の手引及び大学での指示書によって行われ、指導はそれぞれのリーダーが当たっている。</p>		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・ b ・c
<コメント> ホームページに園の理念、保育方針、日常の活動内容などが紹介され、第三者評価も定期的に受審する予定となっている。更に、第三者委員などを通じ、地域に園の活動内容などを公開していくことも期待される。		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a ・b・c
<コメント> 園での経理業務は原則発生せず、法人で一括して行われている。事務処理に関しては法人の規定に基づき行われ、法人からは毎年監査が行われている。		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・ b ・c
<コメント> 子どもと地域との交流に関しては、隣接する尚綱学院との交流が行われ、ハロウィンではお互いに訪問しあうなどの交流が行われている。また、地区の交番への訪問、消防署員との交流なども取り組まれている。更に、尚綱学院以外の地域との交流に関しても今後検討していくことが望まれる。		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a・ b ・c
<コメント> 隣接の尚綱学院の中学、高校生による園のイベントにおける保育補助的ボランティア活動が行われ、今年度も8名ほどの受け入れが行われた。また、保育士養成学校などからの保育職場見学なども行われており、今年度は3名の見学者の受け入れが行われた。受け入れに当たっての注意事項に関するものはあるが、事故防止等も含めマニュアルとして作成していくことが望まれる。		

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	Ⓐ b・c
<コメント> 警察、消防、保健所など関係する地域の機関とは定期的な会合等を行われていないが、必要に応じた連携はできる関係作りが行われている。また、医療機関に関しては園が大学病院の企業主導型保育所であることから、もとより強い関係ができています。		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a・Ⓑ c
<コメント> 企業主導型保育所でもあり、クライアントである大学病院における保育に関するニーズは日常の打ち合わせにより把握できているが、地域におけるニーズの把握に関しては今後の課題となっている。第三者委員でもある民生委員などを通じ、確認していくことが望まれる。		
27	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・Ⓒ
<コメント> 現状では特に地域に対しての公益的活動はおこなわれていない。今後、地域でのニーズを確認し、園として可能な活動を検討し、地域との連携を模索していくことが望まれる。		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施 Ⅲ-1

利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	Ⓐ b・c
<コメント> 利用者を尊重した姿勢は、保育園としての保育方針等に示され、保育に取り組む姿勢は「アートチャイルドケアの誓い」に明記され、職員は毎朝のミーティングで唱和を行ってから業務に入り、保育での心得を確認している。		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a・Ⓑ c
<コメント> 保育園における業務手順書にプライバシー確保に関する保育手順が示され、おむつ交換時には衝立を設置しての交換を行う等、設備上での配慮も行われている。更に、業務手順書全体にプライバシーへの配慮を加えていくことも望まれる。		

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-①利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>園のパンフレット、入園のしおりは大学の総務課に置かれ、利用希望者への配布が行われている。利用希望者に対しては、園の見学及び、園長や主任により、入園のしおり等をもとに説明が行われている。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>保育の開始時には入園のしおりを兼ねた重要事項説明書により、説明が行われ、同意書に説明後署名をもらっている。又、進級時には家族会等で、進級にあたっての変更点などを説明し、必要な資料の配布も行われている。重要事項説明書に関し説明書類と署名をもらう書類は同一であることが望ましい。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>個人情報に配慮した対応が行われて、必要事項についての説明が行われている。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>日常における保護者との会話や懇談会での聴取、園での行事後のアンケート、子どもとのふれあいから、満足度の把握がなされ、法人からは毎年定期的に、CS アンケートが実施され保護者からの要望や意見等が把握され、結果を基に職員会議等で課題や解決のための取組が話し合われている。取り組みに関しては保護者への公表も行われている。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>苦情対応のマニュアルは策定され、受付窓口などは入園のしおりへの記載や、園内での掲示が行われ、対応体制もフローチャート化され明示されている。受けた苦情に関して、申し出の保護者が了解したものについては園のお便りでの公表が行われている。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a Ⓑ c
<p><コメント></p> <p>入園のしおりには相談窓口が明示され、相談の為の部屋を用意するなどの環境を整えている。更に、相談の受付に関しては、担当職員以外に主任や園長等他の職員にも申し出できること等を保護者に分かりやすくしていくこと等が期待される。又、意見箱の設置なども行っていくことも望まれる。</p>		

36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>受けた相談に関しては申し送り書に記載し、ミーティングの際に職員で話し合いを行い、又、必要に応じてリーダー会議などでの話し合いが行われ、対応策とともに記録され、保護者へのフィードバックが行われている。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>事故対応マニュアルが作成され、日常の保育におけるヒヤリハットは、所定の用紙に記入され毎朝のミーティングで報告がなされている。必要に応じてリーダー会議で対応策が検討され、改善策が決められている。内容はミーティング等で全職員へ報告され、情報の共有が行われている。更に、必要に応じて都度、業務マニュアルへの反映も行っていくことが期待される。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>感染症対応マニュアルが作成され、職員への研修が行われている。感染症発生時には保護者への情報提供が行われ、自宅での注意事項なども通知。対応マニュアルは必要に応じて見直される仕組みとなっている。特に今年度は感染症対策を積極的に進めており、嘔吐などに対して、具体的にロールプレイによる訓練を複数回行い、実際の場面での対応が適切にとれるような取り組みが行われている。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にやっている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>災害対応マニュアルは策定され、毎月の訓練が行われている。隣接の学校との話し合いのもと、グラウンドを一時避難場所として設定し、保護者への引き渡しが無事行われるような取り組みが行われている。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>業務手順書として整備されており、作成にあたっては法人よりの素案に基づき、リーダー会議で園の特性を考慮し、検討が行われ作成されている。更に、支援の内容にプライバシー保護等を織り込んでいくなどの検討を加えていくことも期待される。</p>		

41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・ (b) ・c
<p><コメント></p> <p>現状の手順書が作成されたばかりであり、見直しについては行われた実績は無いが、今後はリーダー会議等での話し合いにより定期的な見直しが行われる予定となっている。又、必要に応じて都度変更を加えていくことも望まれる。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントに基づく指導計画を適切に策定している。	(a) ・b・c
<p><コメント></p> <p>個々の子どもの指導計画を作成するにあたり、園では「発達記録」としての統一された様式を使用し、決められた手順に基づきアセスメントが行われている。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	(a) ・b・c
<p><コメント></p> <p>指導計画は職員会議やリーダー会議で検討され、必要に応じた見直しが行われている。又、緊急に見直しが必要な場合も、申し送りや、ミーティングでの話し合いのもと見直しが行われている。</p>		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	(a) ・b・c
<p><コメント></p> <p>保育に関する実施記録は園での統一された様式に的確に記録され、申し送りやリーダー会議を通じて職員間で情報の共有が行われている。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・ (b) ・c
<p><コメント></p> <p>法人での定められた個人情報保護規定に基づき管理され、園では鍵のかかるロッカーに管理され、園長が管理責任者となり、資料の出し入れに関する仕組みが決められている。更に、この仕組みも業務手順書にも記載していくことも期待される。</p>		

評価対象A 福祉サービスの内容

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
46	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>法人からの資料を基に園長と主任が素案を作成、リーダー会議で検討し、園の環境に即した内容を加え作成されている。作成した全体計画は職員会議で、全職員に説明し共有が図られている。3~4か月に一度の定期的な見直しを行い、法人の了解のもと変更をかけている。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
47	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>園は新設したばかりであり、広くきれいな園内が確保されている。床からは暖房の吹き出しがあり、はだしで園内が過ごせるようになっており、2階の広間ではステージも設置され、楽しく発表会ができるような工夫がされている。又、保護者の負担を考慮し、昼寝用の布団は園で準備し常に清潔な状態で使用ができる取り組みがなされている。</p>		
48	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>個々の子どもの発達記録や保育日誌をもとに、それぞれの子どもの状況に応じた、個性を尊重した保育が行われている。</p>		
49	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの家庭環境に応じた取り組みが行われ、自宅での食事時間を考慮し、園での昼食時間を2グループに分けて対応するなど、子どものニーズに合わせた取り組みが行われている。又、園では眠育に力を入れており、正しい生活習慣の中で、きちっとした睡眠がとれるような指導が行われている。</p>		
50	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>子ども同士での共同した制作活動を通じての自主的活動や、近くの公園への散歩途中での交通ルール、公園での自然とのふれあい、公園から落葉等を持ち帰り、それを使っての制作等、子どもの自発性や自然との触れ合いを保育の中で学んでもらう取り組みが行われている。</p>		

51	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>原則として特定の保育士が継続した保育を行い、愛着関係を育む取り組みが行われている。大学病院の小児専門医が嘱託医となっており、定期的な情報交換を行い、乳児保育に関して医療面での指導を受けている。</p>		
52	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>年間指導計画に基づき、養護と教育のバランスを考えた保育が行われており、近くの公園への散歩では、公園内で新たな発見を出来るような取り組みが行われ、自然とのふれあいと同時に、新たな知識を得るような保育も行われている。</p>		
53	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>様々な遊びや生活を通して人間関係が育つように配慮している。集団への関わりに関して、友達と一緒に遊ぶ中で、他人の言う事を聞く、又、自分の健康や生活の基本的習慣を身につける等、遊びの中に教育が取り入れられている。</p>		
54	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>現在障がいのある子どもの保育は行われてはいないが、配慮を必要とする子どもに対しては、嘱託医や専門の医師の指導を受け対応している。（対象外）</p>		
55	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>夜10時までの対応を可能としているが、現状では8時までの利用となっている。延長保育では異年齢保育や夕食の対応が行われている。保育士の引継ぎに関しては、通常の時間帯に子供に怪我など事故があった場合は、引継ぎをせず担当の保育士が責任をもって保護者への報告を行う等の取り組みも行われている。</p>		
56	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>今年度までは小学校への進学の子どもはいないが、来年度より進学の手配者がいるため、小学校との連携に関する取り組みを検討中となっている。</p>		

A-1-(3) 健康管理		
57	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 子どもの健康管理マニュアルは整備され、室内の温度、湿度などの環境管理を始め園内における衛生環境に気が配られている。又、昼寝にあたり、0歳児は5分に一回、1歳以上児は10分に一回の見回りを行いSIDSに対する管理を行っている。		
58	A-1-(3)-②健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	Ⓐ・b・c
<コメント> 定期的な健康診断と毎年の歯科検診を行い、結果は家族に報告、必要に応じて保育に反映している。		
59	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 医師の指導に基づき、アレルギー対策が行われ、アレルギー表を作成し、トレーや食器の色の区分、テーブルの配置、配膳の順番等、マニュアルに基づきアレルギーへの対応が詳細に行われている。		
A-1-(4) 食事		
60	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 日常のメニューは法人で作成、行事食などでは園の栄養士が独自に変更、又、誕生会ではお楽しみメニューを用意、行事食では園児と栄養士などが一緒に食事を楽しんでいる。食育として、プランターでナスやトマト、キュウリ等を育て、食材として使用するなどの取り組みも行われている。		
61	A-1-(4)-②子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	Ⓐ・b・c
<コメント> 衛生管理マニュアルに基づく衛生管理が行われ、残食を栄養士がチェックし、好き嫌いや量の管理が行われている。又、地域食として「ずんだ」等の提供も行われている。		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
62	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	Ⓐ・b・c
<コメント> 年二回の保護者会の開催、希望により年2～3回の個別面談の実施を行い、家族からの意見や要望を確認し、又、夏祭りや運動会などのイベント時にも保護者より話を聞き、保育に反映している。		

A-2-(2) 保護者等の支援		
63	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・b・c
<コメント> 保護者とは送迎時の会話や、個別面談が行われ、家族から気楽に相談できる環境を作っている。相談窓口や相談室も置かれ、常時相談を受けられる体制となっている。更に、より積極的に声掛けを行っていくこと等も期待される。		
64	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・b・c
<コメント> 虐待対応マニュアルは整備され、必要に応じて関係機関や事業所と連携できる体制となっているが、現在の所、虐待案件の発生はない。		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
65	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返りを行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・b・c
<コメント> 職員は自己の目標を記載し、毎月結果を確認し、上司との面談が行われ、アドバイスや指導が行われている。又、年度末には園としての評価を行い、更に、半期ごとの人事考課時には職員自身の保育の質に関する自己評価を、チェックシートをもとに行い、上司との面談時に課題の確認が行われている。		